

かあさんきらいよ 口ぐせは

— 一足でつづった心の詩 —

阿久沢 洋子



かあさんきらいよ口ぐせは

昭和46年4月25日発売 定価 480 円

著 者 阿久沢洋子

発行者 虎見恵美子

印刷所 光 明 社

製本所 越後堂製本

発行所 虎 見 書 房

東京都新宿区戸塚町 3 — 934

電話 368—1065

(分) 0-0-70 (製) 0032 (出) 5280

©1971 Printed in Japan

裝幀・赤坂三好

目次

さんぽ

かあさんきらいよ口ぐせは

おかあさん

まぐろのかんずめ

かあさん あなただけなの

おいしかった水

トイレに行けた

ミシン練習

生れてはじめて字を書いた

うたう心臓

神様の失敗

神さまはいじわる

ちよつとしたおはなし

あのひとことが

28 26 24 22 20 18 16 14 12 10 8 6 4 2

生きてゐるから

信じる

なぜみるの

緑の印象

願い

天使ちゃんありがとう

チコは恋人

ある朝に感じる

ピエロ

しあわせって

心の中につづく道

私の空はうす茶色

四色の雲にのせて

大地をふみしめて――洋子ちゃんの素顔

30

32

34

36

38

40

42

44

46

48

50

52

54

58

かあさんきらいよ口ぐせは

——足でつづった心の詩——

阿久沢 洋子

さんぽ

「おかあさん あせふいて」

ふいてもふいても出てくる汗

でも、うれしい

足なみが

ときどきおかあさんと一緒になる

胸がおどる

「ねえ

こんな子をつれて歩くの

いやじゃない？ おかあさん」

「べつにいやなもんかい

いやだといったって

しょうがないだろう」

ありがとうおかあさん

私は前よりも顔をあげて

胸をはって歩いた

遠くの雲が

「きみはしあわせかい」と

私に声をかけたような気がした

かあさん

きらいよ口ぐせは

こんにちは

あ、いらっしやいませ

——そこから私の話がはじまる

この子がまんぞくなら

かた手でもつかえたら

母は会話のおりにいう

そんな母の願いもわかるけど

かあさん きらいよ口ぐせは

なぜって

私の心をゆするのも

深い森から涙をよぶのも

みんなこの口ぐせからなの

さあ笑おうね かあさん

おかあさん

シワがふえたね

おかあさん

あせだくになって

私のからだを洗ってくれるおかあさん

背のびして

私の手をキュウーッと

のばしてくれるおかあさん

そうやって

あなたは

年をとっていくのねおかあさん

まぐろのかんづめ

まぐろのかんづめをみると思い出す

お父さんのまぐろのこと

小さいころ

お父さんと二人でるすばんをして

おひるにまぐろのかんづめを買ってきた

きちんと骨をとって

口に入れてくれたお父さん

まぐろのお父さん

だいぶ年をとった

まぐろのお父さん

かあさん

あなただけなの

おかあさん

あなたがカゼをひいたりすると

心配です とても

それなのに

あなたの顔を見ると

大丈夫？ という言葉よりさきに

いばったり

半ベソをかいたりしたくなる私

きょう一日のできごとの中で

いやなことばかりが

あなたの前でばくはつしてしまうんです

ごめんなさい おかあさん

でもあなただけなんです

私のうつぶんをはらせるのは

いつか

あなたでないほかの人があらわれるまで

そこでそうして

私のうつぶんばらし屋さんでいてください

いまは

ただあなただけなんです おかあさん